

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月19日現在

機関番号：17201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21730450

研究課題名（和文）戦後ドイツ社会政策の理論と実際に関する研究－社会的市場経済との関連から－

研究課題名（英文）Study on Theory and Practice of the German Social Policy after the World War II

研究代表者

森 周子 (MORI CHIKAKO)

佐賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：00433673

研究成果の概要（和文）：

戦後ドイツ社会政策の基本原則である社会的市場経済概念のもとで望ましいとされる社会政策には、①一次分配を重視し、二次分配を最小限に抑えようとするオイケン型、②二次分配を重視するミュラー＝アルマック型、③二次分配と一次分配を重視しつつも、前者から後者へと力点を移すことを主張するエアハルト型の3つの型が存在するとし、公的年金保険制度と最低生活保障制度の考察を通じて、昨今のドイツ社会政策にはエアハルト型の影響が色濃くみられると結論づけた。

研究成果の概要（英文）：

In the “Social Market Economy” concept, the basic principle of the German post-war social and economic policy, there are three variations (types) of social policy thought to be desirable; ①Eucken type (emphasizing primary distribution, minimizing redistribution) ②Müller-Armack type (emphasizing redistribution), ③Erhard type (emphasizing both primary distribution and redistribution, however claiming the shift of emphasis from the latter to the former). Through the consideration of the public pension system and subsistence benefit system it is concluded that the German current social policy is under the strong influence of the Erhard type.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：社会政策、社会保障

科研費の分科・細目：社会学、社会福祉学

キーワード：ドイツ、社会的市場経済、社会政策、最低生活保障

1. 研究開始当初の背景

戦後ドイツにおける経済政策・社会政策の基本原則であり理念でもある「社会的市場経済 (Soziale Marktwirtschaft)」概念に関する研究はドイツでは盛んであり、日本におい

てもなされている。また、その概念のもとで志向される社会政策がどのような内容であるかを考察する試みもみられる。だが、志向される社会政策の内容には、論者ごとに差異がみられること、および、実際の政策がどの

論者の考えに基づいて展開されているのか、そして、当初の政策意図と実際の政策内容とがどのように共通しているのか、あるいは乖離しているのか、乖離している場合、その原因は何であるのか（その時々の社会・経済状況に起因するのか）、ということについてはこれまで十分に考察されてこなかったように見受けられる。ゆえに、本研究において着手した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、①社会的市場経済概念の影響下での社会政策論の展開の整理（社会的市場経済のもとでどのような社会政策が望ましいとされるかの考察）、②実際の社会政策が、社会的市場経済のもとで望ましいとされる社会政策論および時代状況の影響をどのように受けたかの考察、である。

3. 研究の方法

社会的市場経済概念のもとでどのような社会政策論が望ましいとされるか、については、社会的市場経済概念、およびその理論的基盤であるオルド自由主義

(Ordoliberalismus)、さらに、影響を与えた社会理論であるキリスト教社会論、Gesellschaftspolitik 論（総合社会政策論）に関する論文を精読した。

実際の社会政策が、社会的市場経済概念において望ましいとされる社会政策および時代状況の影響をどのように受けているのかについては、公的年金保険制度（特に2001年年金改革以降の展開）と最低生活保障制度（公的扶助制度と求職者基礎保障制度）（特に2005年のハルトIV法改革以降の展開）に焦点をあて、関連する文献および政策文書を精読するとともに、ドイツにおいて、政策立案に携わる関係者（連邦労働社会省、連邦雇用エージェンシーなど）への聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

研究目標の①については、戦後ドイツにおいて、社会的市場経済概念のもとで望ましいとされる社会政策に関して3つの見解が区別されることを明らかにし、それぞれの主要な論者の名をとって、それらの見解を、オイケン型、ミュラー＝アルマック型、エアハルト型と称した。オイケン型は社会政策＝経済政策（秩序政策）と捉え、一次分配を重視し、二次分配を最小限に抑えようとする。ミュラー＝アルマック型は社会政策＝経済政策＋二次分配政策（経過政策）と捉え、二次分配を重視する。エアハルト型は社会政策＝経済政策＋二次分配政策＋自助促進のためのインフラ整備と捉え、一次分配と二次分配の両者を尊重しつつも、後者から前者へと力点を移す

ことを主張する。そして、1970年代半ば以降、望ましいとされる社会政策の見解が、ミュラー＝アルマック型からエアハルト型へと移行したと指摘した。

研究目標の②については、実際の社会政策として公的年金保険制度と最低生活保障制度に焦点をあて、それらの昨今の展開が社会的市場経済において望ましいとされる社会政策（エアハルト型）と、時代状況の影響をどのように受けているかについての考察を行った。

まず、最低生活保障制度については、とくに2005年から開始された求職者基礎保障制度（稼働能力を持つ困窮者に対する制度）については、その受給者を削減するために、失業者に対するきめ細かな就労支援と並んで、「上乘せ受給者」（就労しながら求職者基礎保障を受給する者）への適切な対応（住宅手当・所得控除などの拡充、受給者の家族構成に応じた柔軟な給付形態の検討）が必要であると指摘した。

次に、公的年金保険については、日本とは異なり国民皆年金ではなく、しかも所得比例年金のみで構成されることから生じる低年金者・無年金者への保障がどのように構想されているかを考察した。その結果、一定以上の保険加入期間を有する者に対し、年金の算定要素の一つである「報酬点数」の値を一定程度引き上げる、という形での改革が志向されていることが明らかになった。

これら二つの制度の検討を通じて、稼働能力を持たない者への二次分配は十分に行いつつも、稼働能力を持つ現役世代に対しては就労促進による「二次分配への依存」から「一次分配への参加」への移行を重視し、老齢世代に対しては、長期的に一次分配に参加していた者への相応の二次分配の保障が企図されていることから、あらためて、エアハルト型の影響が見られると結論付けた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

- ① 森周子、ドイツにおける「最低保障年金」をめぐる論議、日本年金学会誌、査読無、32号、2013、143—149
- ② 森周子、ドイツの最低生活保障政策と社会的市場経済 — 一次分配と再分配のあり方をめぐって —、週刊社会保障、査読無、2722号、2013、52—57
- ③ 森周子、第17章 ドイツにおける最低生活保障制度：社会扶助と求職者基礎保障を中

心に、福祉+α④生活保護、査読無、2013、214—223

④森周子、ドイツにおける働く女性の年金：年金法上の配慮とその課題、年金と経済、査読無、31巻4号、2013、33—37

⑤森周子、ドイツの求職者生活保障制度と社会的包摂—ハルツIV法施行後の上乗せ受給者への政策的対応を中心に—、社会政策、査読無、4巻2号、2012、82—93

⑥森周子、ドイツにおける社会保障制度の創設過程、週刊社会保障、66巻2686号、査読無、2012、56—59

⑦森周子、ドイツにおける「ワーキングプア」をめぐる議論—「上乗せ受給」への認識と政策対応、佐賀大学経済論集、査読無、44巻4号、2012、63—80

⑧Mori, Chikako, Social Market Economy and German Social Policy – Focusing on a Desirable Social Policy, 佐賀大学経済論集、査読無、44巻2号、2011、15—29

⑨森周子、ドイツにおける高齢女性の所得保障：年金を中心に、海外社会保障研究、査読無、175号、2011、44—53

⑩森周子、ドイツにおける高齢者生活保障と社会的市場経済—2000年代における政策展開の思想的背景の分析—、経済社会学会年報、査読有、XXX I巻、2009、54—63

[学会発表] (計8件)

①森周子、ドイツにおける女性の年金の現状と課題—日本への示唆も含めて—、経済社会学会西部部会、2012年12月1日、神戸大学

②Mori, Chikako, The Process Involved in the Foundation of the German Social Security System, 第8回社会保障国際論壇、2012年9月9日、アパホテル・リゾート 東京ベイ幕張

③森周子、ドイツにおける「最低保障年金」をめぐる論議、日本年金学会関西特別部会、2012年6月9日、同志社大学

④森周子、ドイツにおける「ワーキングプア」をめぐる議論—社会的包摂の過渡期か？—形態か？、社会政策学会九州部会、2011年9月17日、佐賀大学

⑤森周子、ドイツの求職者生活保障政策と社会的包摂：ハルツIV法を中心に、社会政策学会第121回大会、2010年10月30日、愛媛大学

⑥Mori, Chikako, Social Market Economy and German Social Policy – Focusing on a Desirable Social Policy, 日独社会科学学会第11回大会、2010年10月8日、法政大学

⑦森周子、ドイツ『ハルツIV法』について、社会政策学会雇用・社会保障の連携部会、2010年7月27日、明治大学

⑧森周子、ドイツにおける失業者の生活保障に関する考察、社会政策学会九州部会、2009年9月12日、佐賀大学

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他] (計5件)

1. 翻訳

①森周子・小坂亮、ルッツ・ライゼリング「複雑な秩序形態としての老齢保障の民営化—福祉市場と規制国家性の発生に関して(1)、佐賀大学経済論集、42巻5号、2010、1—21

②森周子・小坂亮、ルッツ・ライゼリング「複雑な秩序形態としての老齢保障の民営化—福祉市場と規制国家性の発生に関して」(2・完)、佐賀大学経済論集、42巻6号、2010、59—82

2. シンポジウム登壇

①森周子、ドイツの最低生活保障政策の現状と課題—ハルツ改革を中心に—、フォーラム「最低生活保障の国際比較」、2011年2月28日、大分大学

②森周子、セーフティネットの現状と課題、佐賀県弁護士会「貧困問題全国キャラバン市民集会」、2011年1月29日、佐賀大学

3. ゲスト講義

①森周子「ドイツにおける公私年金の動向」横浜国立大学ビジネススクール「企業年金総論（担当：山口修先生）」、2013年1月12日、横浜国立大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森 周子 (MORI CHIKAKO)
佐賀大学・経済学部・准教授
研究者番号：00433673

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：